

「天地人」ゆかりの 山形県で開催

島藤 大滝恵三（大手町出身）

総会、宿泊地は赤湯温泉で

平成十一年、約一世紀の歴史に幕を閉じた上越学生寮は翌年、寮在籍者による上越寮友会が発足、本年十周年を迎えた。昨年の定期総会で「第十回の記念総会は大河ドラマ・天地人の舞台となっている米沢周辺での開催」を提案した私が企画を任された。そして最終的に決めた開催地が、総会の開催、宿泊地は米沢から十数キロの南陽市赤湯温泉、翌日は米沢市内「天地人」ゆかりの地を巡る旅とした。

十月十六日（金）、十七日（土）の二泊二日、出席者は首都圏から十二人、上越市から八人、インターネット会員では理事の杉臣武さん、元監事の水嶋晃さんなど五人。山形新幹線・赤湯駅に昼頃集合、旅館のマイクロバスで南陽市内を巡りながら赤湯温泉に向かう。最初に寄ったのが夕鶴の里。これについては十月の「お元氣ですか」の杉臣さん連載の徒然草道で紹介されているので省略。次は日本三熊野の一つ熊野大社。四百余年前の熊野宮の立て替えに直江兼続が関与し、米沢城の鎮守として大切に守られてきた。最後に、継ぎ目の無い一本石のものでは高さ十・七五mと日本一大きい烏帽子山八幡宮の大鳥居を拝観して三時過ぎ「湯宿升形屋」に到着。この宿は源泉かけ流しと閑静な庭園が自慢の純和風旅館。赤湯温泉は開湯九百十六年、上杉家の御殿湯や湯治場として古い歴史を持つ。寛治七年、八幡太郎義家の弟義綱が草刈八幡のお告げにより発見、その湯に戦で傷ついた兵士を入れると、たちまち傷は治り、温泉は傷からの血で深紅に染まったといわれ、それが赤湯の言われという。

三時半からの総会は滞りなく終了後、恒例のOB卓話。講師は当会会長で国際弁護士として活躍中の松枝迪夫さん。去る三月十六日、日本テレビの人気番組・ミヤネ屋に電話出演、日本と欧米の契約観について語っていたものと同趣だが、その録音したビデオ上映の後、それについて講演した。

OB卓話 日本人には「契約」はない？

この間の米国の金融危機の時、公的資金を受けた大企業（AIGなど）が経営者らに莫大なボーナスを支払っていたことが判明した。オバマ大統領が激怒した様がテレビで流された。私はこの米国の流儀についてミヤネ屋の番組でコメントを求められ、ここに書くような話を話した。

日本の社会は基本的に人情で動き、契約で決めたら是が非でも守るという意識は薄い。事情変更ということで気軽に変更を頼む。それに応ずるのも日本人の良きで、太っ腹、清濁併せ呑む人となる。拒否すると、不人情で分からず屋と逆恨みされかねない。欧米人は、契約は神との約束、契約と考えるから軽々しく変えないし、変えなくとも当然視される。欧米も契約を破るが、もつともらしい（神様にも叱られない）理屈を用意するのである。海外取引では長い交渉をした結果

を分厚い契約書にする。契約は交渉の終着点だからだが、日本人や中国人は今後の出発点とみる。だから「何事も協議する」という一行で足るのである。



大滝 恵三さん

上越と鶴巻郡 米沢市の見所を見学

翌十七日も旅館のマイクロバスで八時五十分出発、米沢へ。途中沿道には山形特産の鈴なりのラ・フランスが方々に、また赤く実ったりんごもちらほら。米沢とのほぼ中間の亀岡文殊堂に寄る。日本三大文殊というだけあって大きくて立派。奉納詩歌百首が秘蔵され、その中には兼続や弟の大因実頼の詩歌も残されているという。

十時に米沢城址に着く。天地人の舞台が前週から米沢になったことと、土曜日のせいか団体も含め非常に混んでいる。十二時まで自由行動だが、まず全員で上杉博物館内の天地人博に入場。兼続が

目にし、手にしたと思われる数々の文化財、これらのコレクションによって語られる兼統の実像と、ドラマ世界で描かれる兼統の姿。これらの展示室をぬけると米沢の歴史展示コーナー。必見の国宝「上杉本洛中洛外図屏風」があった。織田信長が上杉謙信に贈ったもので、左右が七m三十cmもあり、京の市街地（洛中）と郊外（洛外）を高い視点から描いている。次は上杉謙信を祭神とし、本丸跡に建てられた上杉神社、謙信、景勝、鷹山、兼統の遺品などを収蔵する稽照殿、謙信、景勝、鷹山を祭神とし、兼統の功績を讃えて合祀した松岬神社を見学、土産処・上杉城史苑で買い物。昼食は置賜地方名物の日本そばで舌鼓を打つ。午後はまず兼統の治水事業・直江石堤、最上川の氾濫を防ぐため、一、二キロに及ぶ石積み堤防。次は林泉寺。上杉家の移封に伴い会津、米沢に移転。藩主の奥方、子女や重臣、兼統・お船夫妻の墓がある。最後は上杉家廟所。米沢藩主代々の墓所正面の上杉謙信公の墓に最敬礼して旅は終了。



知恵が授かる？ 亀岡文殊堂前



米沢城址の上杉神社前